平成２９年度教育事業　夢冒険
真夏にチャレンジ　～『∞』の一歩～

１．ねらい

①日頃の生活ではできない体験や活動への挑戦を通して、達成感や喜びを感じとらせ、自己肯定感を育ませる。
②基本的生活習慣の確立や規範意識を高めさせる。
③異年齢での集団行動を通じて、仲間と協力する気持ちを培わせる。
④基礎体力の向上を図るとともに、自然の中で生きるために必要な知識・技能を養わせ、主体的に考え、状況把握し危機管理できる能力を身につけさせる。
⑤自然の雄大さやすばらしさに気づき、視野を広げさせる。

２．実施日

平成２９年８月６日(日)～８月１３日(日) ７泊８日

３．対象者

小学校５・６年生、中学生

４．参加者 ／ 募集定員

２３名／２４名

５．プログラム（要約）

２年目を迎えた、曽爾から伊勢まで「歩く」、移動型キャンプ。新たな内容や活動を加え、『∞』の一歩をテーマに、曽爾から伊勢まで続く道や川を辿り、そこにある「自然」「人」「歴史」を五感で感じ、自分たちの「足」で歩き、仲間と「力」を合わせて川を下り、仲間とともに様々な困難やチャレンジを乗り越えながら、約１００ｋｍの道のりを様々な手段を使って移動した。台風５号の影響を受け、プログラムの変更やバス移動により歩行距離の短縮もあったが、安全を第一に考え、曽爾青少年自然の家から三重県にある伊勢神宮を目指した。「歩いて曽爾から伊勢を目指す」という大きな目標の達成に向け、新たな挑戦や仲間づくり、自分を見つめる等、その日ごとのねらいをしっかり設定するとともに、移動する活動の他に野外調理や川の活動、ウォークラリーなど様々な体験活動を盛り込み、仲間とともに協力する場面、自分自身の力を発揮する場面を設けた。また、街道沿いに暮らす人々と交流することや、お伊勢参りの歴史や意味について学習する機会を設け、歩くことを通して様々なことを考え感じることができるプログラムとした。

スケジュール

日	主なスケジュール	距離（約）
６日	★仲間との出会い、仲間づくり（グループづくり）	
	国立曽爾青少年自然の家（集合） はじまりの会 目標設定 地図づくり・歴史学習 夢冒険ＴＩＭＥ（個人の目標発表）	
	【宿】国立曽爾青少年自然の家 （奈良県宇陀郡曽爾村）	
７日	★仲間を知る、仲間との交流・挑戦！	
	グループTIME 名刺交換・グループワーク 夕食作り 夢冒険ＴＩＭＥ（班の目標発表）	台風5号の影響を受け自然の家に**滞在**
	【宿】国立曽爾青少年自然の家 （奈良県宇陀郡曽爾村）	
８日	★仲間を知る、仲間との交流・挑戦！	
	曽爾⇒（バス移動）⇒リバーサイド茶倉 ウォークラリー 夕食作り 夢冒険ＴＩＭＥ（花火）	台風5号の影響を受け自然の家から**バスで移動**
	【宿】リバーサイド茶倉 （三重県松阪市飯南町）	
９日	★「歩く」、仲間との挑戦！自分への挑戦！	
	リバーサイド茶倉⇒五桂池ふるさと村 夕食作り 夢冒険ＴＩＭＥ(仲間の良いところ探し)	17km
	【宿】五桂池ふるさと村 （三重県多気郡多気町）	
１０日	★未知なる挑戦！仲間との挑戦！仲間との協力！	
	五桂池ふるさと村⇒中川大橋 川下り（宮川） （中川大橋～宮リバー度会パーク）	5km 6km
	【仮眠休憩】度会中央公民館 （三重県度会郡度会町）	
	度会中央公民館⇒伊勢神宮 ≪夜間歩行≫	13 km
１１日	★仲間を見つめる、自分を見つめる	
	伊勢神宮到着	
	仮眠 内宮参拝 伊勢散策（おかげ横丁） 夕食作り 夢冒険ＴＩＭＥ（班シャッフルTIME）	
	【宿】修養団伊勢青少年研修センター （伊勢市宇治今在家町）	
１２日	★「山」から「海へ」、真夏にチャレンジをふりかえる	
	夢冒険ＴＩＭＥ（ふりかえり・まとめ） 川の活動（五十鈴川） 夕食作り 夢冒険TIME（キャンプファイアー）	
	【宿】修養団伊勢青少年研修センター （伊勢市宇治今在家町）	
１３日	★冬への目標設定、真冬にチャレンジへつなげる	
	清掃活動、ふりかえり、おわりの会 二見が浦見学 伊勢（バス）⇒名張⇒榛原（解散）	
冬の「夢冒険」へつづく		

８月６日（日）【１日目】

台風５号が接近する中、奈良、三重、京都、和歌山から、小学校５・６年生１２名、中学生１１名の計２３名が曽爾青少年自然の家に集まった。不安と期待を胸に、７泊８日共に活動を行う異年齢男女混合の１班５～６名の４班で、「夢冒険」真夏にチャレンジがスタートした。

曽爾から伊勢を目指すための準備として、伊勢街道の歴史やお伊勢参りの意味について風景街道「伊勢街道」連絡協議会会長の裏宗久氏にお話をいただいた。子どもたちは、「歩く」ことだけでなく、昔も今も変わらぬ伝統や文化を知ると共に、そこにある自然や歴史について、様々な視点で学ぶことができた。

つづいて、裏氏にも協力をいただき、曽爾から伊勢までの「地図」作りを行った。頭を寄せ合い、相談しながら、切り離された地図をつなげ、歩く距離や道をみんなで確認した。子どもたちは、完成した地図の長さを見て、自分たちが歩く距離に驚くとともに、未知なる挑戦に気持ちを引き締めた。

地図作りの後は、個人・班目標の設定、班の旗作り、歩くための準備などを行い、最後に、なぜ夢冒険に参加しようと思ったのか、夢冒険にかける思いなど、「個人の目標」を全員の前で発表した。

夢冒険初日、それぞれに、様々なチャレンジをしながら、仲間との距離を縮め、「曽爾から伊勢まで歩く」という大きな目標に向かって、参加者２３名、曽爾ボランティア１２名、職員７名の気持ちが徐々に一つになった。

８月７日（月）【２日目】

前夜から台風の進路と状況を見ながら、早朝出発できるよう準備を進めていたが、台風の進路は「近畿地方直撃」となり、早々に「警報」も発令されてしまったため、出発を断念し、自然の家で待機することとなった。

「歩きたい！」気持ちが抑えきれず、肩を落とす子どもたちもいたが、これも自然！これも思い出！と、気持ちを切り替えて、２日目の荒天プログラムをスタートさせた。

まずは、自己紹介ＴＩＭＥ。一人ひとり、私説明書や私自慢、おもしろエピソードなどを書いた「名刺」を作り、改めて全員と自己紹介をした。そのあとは、何枚か抽出した名刺の内容をよみあげ、誰の名刺かみんなで当てて盛り上がった。

仲間のことを少しずつ知った後は、自分たちがやりたいことを相談して、おにごっこやドッチボール、番号送りなどを自分たちで、話し合いながら、ルールを決めて行った。

さらに、夕食事作りで仲間と協力したり、これから野外で調理する際に使う、炊事セットの使い方などをみんなで学んだり、有意義な時間を過ごすことができた。

自己紹介や全員で相談したり協力したりする時間をゆっくりじっくり過ごせたことで、自分を見つめ、より深く仲間と関わる機会となりチーム夢冒険としても、いい雰囲気を作ることができた。

これも「台風のおかげ」、さらに翌日からの活動に期待が高まった。

８月８日（火）【３日目】

たくさんの雨を降らせた台風５号は、なんとか未明に過ぎ去ったものの、まだすっきりせず不安定な天気のため、安全を第一に考え、３日目の宿泊場所まで、一気にバスで移動し、翌日からの歩行や活動に備えることとした。

自然の家をスタートする前に、「夢冒険のうた」を唄い、メンバー全員で円陣を組んだ後、「行ってきまーす！」と笑顔でバスに乗り込み、自然の家を後にした。

宿泊場所である、リバーサイト茶倉に到着後は、小雨が降る中、歩行と協力のウォーミングアップとして、班ごとに「たからもののじかん」「まなつのゆめぼうけん」などと「夢冒険」の歌の歌詞が一文字ずつ書かれた石を協力して探す宝探しウォークラリーを行った。地図を見ながら協力する姿からも、日に日に班の結束力が強まっているのを感じることができた。

夕食は、初めての野外での食事作りで、「パエリア」にチャレンジした。各班同じ材料を使ったとは思えないほど、バラエティーにとんだ１品が完成し、どの班も「おいしい！おいしい」と食べ残しなく、完食した。

本来であれば、今日は一番長い歩行で疲れ果てている予定だったが、子どもたちの元気はまだまだ満タン状態。明日の出発をまだかまだかと待ちわびながら、就寝した。

８月９日（水）【４日目】

空も心も快晴！「夢冒険」も４日目を迎え、ようやく出発の一歩を踏み出す時がきた。

子どもたちは、身支度、荷物の整理、調理等、毎日の繰り返しの中で、段取りや役割分担を考え、班の仲間と協力しながら、スムーズに行えるようになっていた。今日まで、出発日を待ちわびていた子どもたちは、元気いっぱい、笑顔いっぱい、リバーサイド茶倉から五桂池ふるさと村に向けて、ようやく一歩を踏み出した。

歩行距離は１７ｋｍ。照りつける暑さに体力を奪われながらも、各班声をかけ合い、仲間を思いやりながら、今日まで培ってきたチームワークを発揮した。

途中、地元の人に声をかけてもらったり、車から声援をもらったり、子どもたちはたくさんの「力」をもらい、一歩一歩前へと歩みを進めた。

どの班も予定よりかなり早いペースで到着したため、ヘトヘトになっていると思いきや、後からの班が到着すると、みんなで列を作りハイタッチで迎えるなど、まだまだ元気な様子で、無事に歩行初日を終えることができた。

五桂池ふるさと村に到着してからは、自分たちの「衣食住」の荷物を運び、生活環境を整え、夕食作りを行った。本日のメニューは、「豚肉と白菜のミルフィーユ鍋」。手際よく調理し、完成した鍋を囲みながら、今日一日の出来事をふりかえり、みんなで楽しく、おいしいひと時を過ごした。

そして、夜の「夢冒険ＴＩＭＥ」は、仲間の良いところ探しで、班のメンバー一人ひとりの良いところについて手紙を書いて交換した。夜の静けさの中、仲間からもらった「自分の良いところ」を読んで、真剣な顔になったり、笑顔になったり、涙を流したり、心温まる時間が流れた。

今日で夢冒険も半分の日程が過ぎ、さらにチームとしてみんながひとつになったと感じることができた。

８月１０日（木）【５日目】

「歩き」＋「川下り」＋「夜間歩行」と「夢冒険」のメインとなる日。

昨年度は徒歩を中心に移動をしたが、今年度は新たなチャレンジとして、ボートでの川下りを行った。

まず、川下りのポイントへ行くために、五桂池ふるさと村から約５km先にある､度会町の中川大橋へ歩いて移動をした。そして、そこからボートへと乗り換え、宮リバー度会パークまでの約６km をボートで川を移動した。

ボートはみんなで協力しないと前に進むことができない。歩きながらも仲間の大切さや協力することの大切さをかんじていた子どもたちだが、川下りを経て、さらに「協力すること」や「仲間を思いやること」の大切さに気づくことができた。

「１・２、１・２」と声をかけ合う班、班独自の号令で力を合わせる班、時には、川の流れに負けて、対岸へ押し流されそうになったり、仲間と力が合わず、イライラしてしまったりと順調なことばかりではなかったけど、最終的には、どの班も協力して前に進むことができ、ゴールの宮リバーパークに全員無事に到着することが出来た。

川下りの後は、夜間歩行。疲れた体を休めるため、少し仮眠をとり、日が変わる１２時に度会町を出発して、最終目的地の伊勢を目指した。

暗闇の中、今までの疲れを感じさせないほど、元気な足取りで、しっかりと前を見つめ、一歩一歩着実に足を進めた。

しかし、はじめは元気だった子どもたちも徐々に口数も減りはじめ、前に歩くことだけにすべての力をかけ、歯を食いしばり、一人ひとり自分と戦い、仲間と助け合いながら頑張る姿が見られた。

８月１１日（金）【６日目】

暗い中、眠気と疲れと戦いながら歩き続け、途中の休憩では、一度座ってしまうとなかなか立てなくなる子どももいたが､みんなの目標は一つ､内宮を目指し、みんなで力を合わせながら、歩みを止めることなく、最後まで歩き続けた。

そして、徐々に空が明け始めた５時頃、誰一人リタイヤすることなく、全班無事にゴールの内宮にたどり着くことができた。出発から約５時間、くたくたになりながらも、最後まであきらめずに自分の足で歩いた自信とやり遂げた達成感に満ち溢れ、すがすがしい顔で、仲間とハイタッチをした。

到着後は、今日から宿泊する伊勢青少年研修センター（修養団）に向かい、お昼まで睡眠をとった。

睡眠をとり、午後からは、班の仲間と内宮参拝とおかげ横丁の散策を行った。お小遣い１，５００円を使い､「伊勢うどん」を食べたり、家族へのお土産を買ったり、仲間と楽しく過ごした。

自然の家を出発してから、４日。自分の足と仲間との協力で、目的地へ辿り着いた子どもたちの姿は、達成感と自信に満ち溢れ、たった数日で一回りも二回りも大きくなったように感じられた。

８月１２日（土）【７日目】

８月６日からスタートした夢冒険も残すところ２日となった今日。

午前中、一人ひとり７日間の出来事や感じたことなど、自分自身の成長や思いをふりかえり、班のみんなで共有した。さらに、歩行中や川下りでの班のエピソードやふりかえりの内容を全体の前で発表し、まとめた。

そして、午後からは、内宮のふもとにある五十鈴川に川遊びに出かけ、ボランティアが企画したゲームを

みんなで楽しんだ。
　最後の夕食は、リーダーたちの力を借りずに、自分たちだけで「カレーづくり」を行った。
　７日間のチームワークを発揮し、どの班もおいしく、スペシャルなカレーが完成した。そして、完成したカレーには名前やメッセージをつけ、リーダーたちに感謝の気持ちを伝えた。
　「夢冒険」真夏にチャレンジ最後の「夢冒険ＴＩＭＥ」は、キャンプファアーで大きな火を囲み、ゲームをしたり、歌を歌ったり、ダンスをしたり、今日までの夢冒険の思い出をふりかえりながら、仲間とともに楽しい時間を過ごした。
　最後の夜、思い出話やこれからのことを話しながら、仲間との時間を惜しみ、就寝した。

８月１３日（日）【８日目】
　８日間様々なチャレンジを乗り越えてきた疲れも感じられないほど、全員、元気に最終日の朝を迎えた。
　真夏のチャレンジとして、仲間と過ごす最後の時間をかみしめながら、朝食作りを行い、最後は、お世話になった伊勢青少年研修センター（修養団）をみんなで「来た時よりも美しく」感謝の気持ちを込めて、清掃活動を行った。
　そして、昔は「伊勢神宮」参拝の前には「二見興玉神社」で身を清めるのが習わしだったということで、みんなで二見浦に足を運び、伊勢神宮参拝や伊勢街道のつながりを心と体で感じた。
　長いようで、短かった８日間のチャレンジ、いろんな困難や苦しみを乗り越えながらも全員が一つの目標を達成できたことは、子どもたち一人ひとりの自信になったとともに、大きな成果となった。
　真冬にチャレンジまで、約５ヶ月それぞれの場所で目標を持って過ごし、さらに成長した姿で再会できることを約束して別れた。

６．まとめ
　移動キャンプ２年目、昨年度とはまた違うコースと内容で７泊８日、様々なチャレンジを行った。
　台風５号の影響を受け、スタート早々、プログラム変更を余儀なくされたが、これも自然！これも思い出！体験には様々な「出来事」が付き物であり、「その時どうするか」「どう動くか」子どもたちにとっても様々なことを考え工夫する機会となった。
予定より、歩行距離は短くなったが、前半約３０ｋｍの『歩行』、途中、ラフティングボートによる約１０ｋｍの『川下り』、そしてラスト１５ｋｍの『夜間歩行』等、仲間と協力し、前へ前へと歩みを進め、全員無事に伊勢にゴールすることができた。また、真夏の歩行ということで熱中症や長距離歩行の疲労を心配したが、早朝や夜間の涼しい時間帯での歩行や、無理のない歩行距離の設定など、安全を第一に考え、様々なことを想定した対策を講じたことで、大きなトラブルもなく全員で歩ききることができた。
　７泊８日、夢冒険としてのねらい、個人・班のねらいを持ち、毎日出発前にねらいや班の目標を確認することを大切にし、その日の出来事や自分自身の気持ちの変化や思いをしっかりとふりかえり、明日につなげるようにした。ふりかえりやまとめの時間を大切にしたことで、自分の気持ちや体調の変化に気づくとともに、仲間の気持ちや様子も知ることができ、自分や仲間を見つめる良い機会となった。
　「∞の可能性」を信じ、目標を達成したことは、子ども一人ひとりにとって大きな自信となり、心に残る体験・経験になったと考える。子どもたちからは、「自分から挑むから楽しい、仲間がいたから頑張れた」「自信がついた」など、達成感を得られた感想が多く聞かれた。
　「できた」「やれた」達成感を目に見える形で感じ、また、「曽爾から伊勢まで歩いた」という現実が形として残ることは、子どもたちの自己肯定感にも大きく影響すると考える。
　次は、真冬にチャレンジ！子どもたちの冒険はまだまだつづく。　　（企画指導専門職　岡野　こころ）

平成２９年度教育事業　夢冒険
真冬にチャレンジ～一歩から広がる『∞』の可能性～

１．ねらい

①日頃の生活ではできない体験や活動への挑戦を通して、達成感や喜びを感じとらせ、自己肯定感を育ませる。
②基本的生活習慣の確立や規範意識を高めさせる。
③異年齢での集団行動を通じて、仲間と協力する気持ちを培わせる。
④基礎体力の向上を図るとともに、自然の中で、生きるために必要な知識･技能を養わせ､主体的に考え、状況把握をし、危機管理できる能力を身につけさせる。
⑤自然の雄大さやすばらしさに気づき、視野を広げさせる。

２．実施日

平成３０年２月１０日(土)～２月１２日(月・祝) ２泊３日

３．対象者

小学校５・６年生、中学生
※真夏にチャレンジに参加した者

４．参加者 ／ 募集定員

２１名／２３名　(真夏にチャレンジ参加者)
※体調不良により２名不参加

５．プログラム（要約）

『∞』の可能性をテーマに、真夏にチャレンジの体験や経験を活かし、冬の自然の素晴らしさや厳しさを自ら体験し、そこにある「自然」「人」「歴史」に触れ、仲間とともに、冬の三峰山・後古光山登山などの様々な困難へのチャレンジを重ねた。

夏のキャンプを振り返るクイズラリーやグループタイム､なかまと相談して鍋材料を購入して作ったオリジナル鍋作り、雪山登山、キャンドルファイアーなどの活動を盛り込んだプログラムを通して､曽爾周辺の大自然にふれると共に、自分やなかまと向き合った。

また、夏の経験や自信が活きるよう、自主的、主体的に活動ができるプログラムの中で、仲間と共に協力する場面、自分自身の力を発揮する場面を設け、自分自身で考え行動できるよう活動や支援を行った。

スケジュール

２月１０日（土）
≪夏～今をふりかえる、関わりの再構築≫
鍋材料の買い物
交流会
グループタイム～夏からを振り返って～
クイズラリー（夏のチャレンジを振り返る）
夕食作り（オリジナル鍋を作ろう）
夢冒険タイム
（冬山へ向けて、クッカーの練習、アイゼンの装着）

２月１１（日）
≪冬の大自然・なかまと新たな挑戦≫
三峰山登山
温泉
グループタイム～みんなありがとう～
キャンドルファイアー（保護者からの手紙）

２月１２日（月・祝）
≪自分との闘い、明日へのチャレンジへつなぐ≫
後古光登山
物品の片づけ
グループタイム～明日へのチャレンジ～

２月１０日（土）【１日目】

真夏にチャレンジから６カ月、夏のチャレンジを共にした仲間と近鉄榛原駅で再会をした。

最寄りのスーパーマーケットに移動して、まず、夕食の鍋作りの相談をした。予め各自で食べたい鍋メニューとその食材を書き出した「鍋メモ」をもとに少し緊張しながらも和気藹々と相談した。「カニすきがいい。」「キムチ鍋にしよう。」「家で寄せ鍋はよく作るから、寄せ鍋以外がいい。」など様々な意見が飛び出した。年長の中学生が、自然と話し合いのまとめ役となり、みんなが見えるようにスケッチブックに購入したい食材をメモしがら話し合いを進めた。話し合いを始め約２０分後には、すき焼き、キムチ鍋、寄せ鍋など、各班の個性が表れたメニューに決定し、電卓を片手に食品売り場に向かった。「白菜は、どの位いるかな。」「こっちの肉の方が安いよ。」「うどんは、何玉食べる？」「あと８５０円余っているよ。」などと話し合いをしながら、売り場をみんなで楽しそうに約３０分間動き回った。どの班も一人当たり５００円の予算内で上手に買い物ができた。また、同時に登山時に食べるカップ麺と行動食も各自で購入した。「おいしい鍋を作ろう」という共通の目標をもとに買い物を一緒にすることによって、半年間のブランクも埋まったように感じた。

自然の家に到着してから、開会式、夢冒険の歌の練習、アイスブレイク、グループタイムを行った。グループタイムでは、夏からの活動を振り返り、この半年間にがんばったこと・成長したこと、逆にがんばれなかったことなども出し合い、それを基に、この３日間の自分の目標、班の目標、約束を考えた。

次に、夏の夢冒険に関する問題を解いてまわるクイズラリーを行い、夏の夢冒険の思い出を仲間と振り返った。「７日目の最後の晩に作ったカレーの特別食材と班のカレーの名前を答えよ。」「５日目の夜間歩行は何km歩いたでしょう。」などの問題に対して、「カボチャとチーズだったよ。」「２２kmだったかな。」「そんなに歩いてないよ。」などと班で話し合い、夏の記憶を呼び起こして回答した。

鍋作りは、洗い場など水場が少ない悪条件にも関わらずどの班も大変手際がよく、あっという間に調理をして、食事を始めた。夏の経験が生かされていると感じた。また、自分たちで選んだ食材ということもあり、残食もなく、きれいに食べきることができた。鍋を囲みながらの食事は、話もはずみほっこり・まったりとした素敵な時間が流れた。

夜の夢冒険タイムでは、雪山へ向けての心構え、アイゼンの取り付けと調整、クッカーの取り扱いを練習して、最後に、グループタイムで考えた、班の目標・約束、個人の目標を全体に発表した。

２月１１日（日）【２日目】

三峰山への期待に胸を踊らせながら、班ごとにエコロジーホールに集合して、パンとスープという簡単な朝食を取った。夏のときと同じように、「ラーメン体操」「夢冒険の歌」「円陣」を行い、バスに乗り込み三峰山に向けて出発した。

三峰山は、麓から１０cm程の雪が積もっていたので、出発の５分後には、アイゼンを装着した。雪の感触を楽しみながら、どの班も順調に真っ白な小道を進んだ。数日前からの記録的な大寒波により、巨大なつららや端が凍った不動の滝など、参加者は荘厳な冬の美しい景色を目にすることができた。

山頂付近は、風が強いことが予想されたので、８合目の山小屋でカップ麺とおにぎりの昼食を取ることにした。登山開始時間が早かったので、先頭の班が山

小屋に到着したときには、山小屋には、まだ数名しか登山客はいなかったが、しばらくすると一気に大勢の登山客が押し寄せ、最後尾の班が到着したときには山小屋は満杯状態となった。なんとか全員が無事クッカーでお湯を沸かし、温かいカップ麺を食べることができた。食事をして、気力・体力共に回復して、再び山頂を目指した。山小屋を過ぎると、今までの杉木立の景色から一変して、霧氷を着飾った天然林の美しい景色となった。「うわぁ！すごい。」「むっちゃ、きれい！」「この霧氷すごく厚い。」と歓声を上げた。また、登山者とすれ違うことも増え、「こんにちは。」と自分から先に、元気に挨拶する場面も増えた。山頂付近に着いた頃から、雲が切れて晴れ間が見え始め、青空をバックに霧氷が一層際だった。八丁平で、雪合戦を存分に楽しんだ後下山した。下りは、転ばないように登り以上に一歩一歩慎重に足を進めた。全員、大きな怪我もなく、予定時間よりも早く下山することができた。ゴール地点でご褒美のお汁粉でお腹を満たした後、温泉で体を温め自然の家へ戻った。

夕食後のグループタイムで三峰山登山を振り返り、その後、なかまへの感謝の気持ちをカードに綴り、そのカードをなかまと交換し合った。小さなカードに細かい文字でビッシリとなかまへの感謝の気持ちが綴られていた。

「全力で楽しむ」というめあてのもと、全員が踊って歌って最後の夜のキャンドルファイアーを楽しんだ。後半は、スライド写真を見ながらで夏の夢冒険と冬の夢冒険を振り返った。参加者の顔には終始笑顔が溢れていた。最後に、参加者は保護者からの手紙をローソクの灯りのもとで読んだ。心のこもった手紙に、全員が胸を熱くした。

２月１２日（月・祝）【３日目】

深夜から雪は降り続き、自然の家周辺は一面の銀世界へ変わっていた。天気は、回復傾向にあったが、外は、吹雪。後古光山登山の決行が危ぶまれたが、４班一緒に全体で固まって移動することと、最終の後古光山の登頂は、現場の状況を確認してから決定することを前提に出発した。

うっすら積もった新雪の下は氷状態で、昨日の三峰山登山以上に滑りやすく歩きにくい道だった。出発後早々にアイゼンを装着して、ゆっくりゆっくり足を進めた。時折、海の波のように新雪が風に流され、幻想的な風景を見た。山道に入ってからは、30 ㎝以上の深さの雪を一歩一歩雪をかき分け、踏みしめながら前に進んだ。

しかし、風の強さと雪の深さのため想定していた以上に時間がかかり、予定時間内に戻ってこられないことが予想されたので、山頂まで３００メートル付近からの山頂アタックは残念ながら断念した。それでも見晴らしのよいポイントまで行くと、昨日登った三峰山や自然の家を眺望することができた。「あの山に昨日登ったんや。」「あれが、自然の家だ。こんなに歩いたんだね。」と声を上げていた。下山の最後にカチカチに凍った長い木製の階段を、一歩一歩慎重に参加者は下った。

昼食後、最後のグループタイムで、３日間の活動を振り返り、これから新たにチャレンジしたいことを話し合った。そして、閉会式で発表した。

「山で、たくさんの人に挨拶することができて気持ちよかった。これから、自分から挨拶できるようになりたい。」「今まで、友だちに自分の意見を言うのが苦手だったが、夢冒険に参加して、考えや思いを周りの人に伝えることができるようになった。これから、もっと自分の意見や考えを積極的に伝えることができる人になれるようにがんばりたい。」など、みんなの前で全員が話すことができた。夢冒険のなかまが、自分の弱点も包み隠さず話すことができる本当のなかまになったからこそだと感じた。

６．まとめ

曽爾でもあまり体験しない大寒波後に実施された今回の『夢冒険』だった。大自然の厳しさを痛感する場面も多かったが、同時に大自然の偉大さ美しさをいつも以上に感じることができた。三峰山の山小屋でお湯を沸かして食べたカップ麺の味、三峰山山頂の霧氷の美しさは、一生忘れることのできない思い出となっただろう。そして、それを共有したなかまとの出会いも一生の宝物となったと思う。

また、夏と冬の２回、同じメンバーが再会し共にチャレンジする『夢冒険』だからこそ感じられる子供たちの成長や変化を見ることができたと共に、真夏にチャレンジ（『∞』の一歩）の出会いや体験、経験が、真冬にチャレンジでも活かされ、さらに参加者の意欲やチャレンジ精神を高めるこができた。

３日間、『夢冒険』としてのねらいをしっかり持ち、班の目標を確認し、みんなの前で発表する機会を設け、「自分」や「自分の気持ち」を表現する場面を大切にした。

夏から冬の時間を通して、班や全体が一体となり互いの個性を認めることで、仲間を思いやる気持ちが生まれ、自然に声がけやサポートし合う場面がみられ、仲間との関係性がより深いものとなった。

（企画指導専門職　田中　耕司）